

2025

開催日時：2025年12月6日（土）12：00 受付
12月7日（日）12：30 解散
開催場所：国立大洲青少年交流の家
大洲市北只 1086

第18回

地域教育実践交流集会

かかわりをチカラに つながりをカタチに
～地域教育で未来を創る～

人の希望は初め漠然と大きく、
後、ようやく小さく確実になるならびなり

正岡
子規



松山市立岩公民館のやぎたち

とびきのやぎの
がらがらどん



主催 地域教育実践ネットワークえひめ
後援 文部科学省・愛媛県・愛媛県教育委員会
「えひめ教育の日」推進会議・愛媛県教育研究協議会
協力 国立大洲青少年交流の家
NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

今が過去になる前に Well being



地域教育実践ネットワークえひめ

代表 若松 進一

世の中にはITのように進んだ部分があると思えば一方で、これではだめだと引き戻そうとする理念のよなものもあるから不思議です。どちらが正しいかは、論を待たねばなりません。家庭では核家族化、学校では少子化による学校統廃合、地域では進む情報化や頻発する自然災害など、子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し続けています。

そのような中においても、未来に生きる子どもたちの成長を願って、家庭や学校、地域が相互補完しながら、それぞれの立場で子どもを守り育てる活動が多くの人熱い思いに支えられ積極的に行われていることは喜ばしい限りです。

振り返れば17年前始めた頃はささやかな有志による活動でしたが、年々工夫が凝らされ、今では大きく成長して参加者も年々増え続け、若者の参加など300人を超える勢いで

す。特に目標として定めた20周年までにはしっかりと「足は野につき心は天に向かって開く」の思いで努力したいと思っています。



出そろった分散会の活動にはそれぞれの地域で様々な活動が繰り広げられており、子どもに関わる多様な人々が交流する中で、気軽に本音で語り合う場所です。次なる実践に向けて新しい知識と知恵を学びましょう。さらにインタビュアーダイアログ「実践者と語る地域教育」、おでんカフェ「なんてったって地域教育」は、今年の目玉として大いに期待をしています。「かわりをチカラにつながり力をタチに」を大いに体感できる大会を目指しましょう。20回目を目指して、わくわく・ときどき・シーズンとするような大会を目指しましょう。Well being 今が過去になる前に……。

アトラクション

大洲市 藤縄神楽

藤縄神楽は、大洲市藤縄、柳沢及び田処地区に伝承されている県指定無形民俗文化財の神楽です。

神楽奉納記録(栗田家文書)によれば、弘化2(1845)年に、同地区において神職神楽としておこなわれていたと記録されています。

現在、主に大洲市内の30余りの神社の祭り等において、神社拜殿で五穀豊穰や無病息災、厄除け祈願などを兼ねて演じられています。

神楽の構成は、「前の口」から「薙刀の舞」までの18演目で構成され、素面または着面で、扇、刀、弓矢などを手にとり、太鼓・締め太鼓・すり鉦・笛とともに舞われています。

とくに、「悪魔払鬼四天」の演目などでは、

ダイバ

鬼と観客のやりとりがあり、伝承過程で神楽の娯楽化が進んだ箇所がみられます。

地域における神楽文化の伝承に果たした役割は大きく、県内外の諸神楽とはその発達の過程を異にしており、地域的特色を示すものとして重要な民俗芸能です。



Schedule

総合司会：堺 雅子

12月6日(土)

12:00 受付

13:00~13:20 **歓迎アトラクション**

大洲 藤縄神楽

13:20~14:15 **開会行事**

ようこそ！ 代表 若松 進一

歓迎ワークショップ

国立大洲青少年交流の家 All stars

14:30~17:30 **分散会** (くじ引きで参加する分散会が決まります)

17分散会 51事例

17:50~

出会いの広場

※自由な時間です。新しい仲間との名刺交換の場でもあります。

記念撮影をするため、分散会を終えて帰途に就く方もぜひ、参加してください。

19:00~21:00 **交流会**

司会 西山 博・武智 理恵・宇津 博美

※チャリティーオークション 若松 進一・松本 宏

12月7日(日)

9:00~10:20 **インタビューダイアログ**

県外 NPO おのみち寺子屋 (広島県)

発表者：柿本 和彦

県内 久米わくわくチャレンジサタデー (松山市)

発表者：杉野 美音

高橋 ひなの

インタビュアー 志々田 まなみ

10:30~12:20 **おでん∞café**

お題「なんてったって地域教育」

回し人 舟田 美加・田房 克寿

ファシリテーター NPO おのみち寺子屋の学生

特定非営利法人ひとつむぎの学生

12:20

閉会挨拶

浅野 長武

12:30

解散

人形作家 林 智美さんによる作品展

昭和初期の暮らしを人形で表現されています。大ホールにて展示していますが、他の場所でも会えるかも。



国立大洲青少年交流の家 All stars



交流の家では、利用者のみなさんが自然体で楽しめる空間づくりを大切にしています。

リラックスした雰囲気の中で体を動かし、笑い合うことで、初対面でもすぐに打ち解け、チームとしての一体感が生まれます。私たち職員は、それぞれのグループの特性や目的に合わせて、最も効果的なプログラムを選び抜いています。

年間を通じて、多彩なアクティビティは、公式SNSで紹介中です。ぜひフォローして、最新情報をご覧ください。

当日は、経験を積んだオールスターズが、みなさんと一緒に楽しみながら進行していきます。

みなさん！一緒に盛り上がりましょう！

インタビューダイアログ

インタビュアー 志々田 まなみ



国立教育政策研究所

生涯学習政策研究部総括研究官

社会教育実践研究センター

社会教育調査官

分散会 LIST



	発表団体名	地域		発表団体名	地域
1 21room	一般社団法人 ソーシャルペダゴジーネット	全国	10	南部町家庭教育支援チーム 「スマイルサポートなんぶ」	鳥取県
	FC今治高等学校里山校投資同好会	今治市	30room	岡田小学校 おやじの会	松前町
	一般社団法人Umidas	愛南町		チームSave Our Future	松山市
2 22room	NPO法人アクションポート横浜	神奈川県	11	まんま会	山口県
	久米わくわくチャレンジサタデー	松山市	31room	愛媛県立三崎高等学校	伊方町
	一般社団法人みんなのまなびや	上島町		みんなで人権を考える会「ころん」	今治市
3 23room	ヨコハマゼロワン	神奈川県	12	四国まなび未来ネットワーク研究所	徳島県
	宇和地域づくり活動センター	西予市	32room	子育て応援団あい♡いく	松山市
	Core-KUMA	久万高原町		まつやま俳句でまちづくりの会	松山市
4 24room	あおばコミュニティ・テラス	神奈川県	13	BG Kids (ビージーキッズ) トクシマ	徳島市
	双海地区公民館	伊予市	33room	こども家庭センター-at高齢者大学	松前町
	立花地区睡蓮会	今治市		ひらの未来塾	大洲市
5 34 A room	津山「体験の風」実行委員会	岡山県	14	一般社団法人もうひとつの大きな家族	高知県
	公民家サークル毛糸の会	東温市	リフレッシュ room	学生団体ブーメランカレッジ	南予地域
	コムスクえひめ八幡浜支部	八幡浜市		河之内稲作体験としめ縄づくり	東温市
6 34 Broom	NPOおのみち寺子屋	広島県	15	高知大学地域協働学部大槻研究室	高知県
	愛媛県立上浮穴高等学校くまもるず	久万高原町	視聴覚室	なんよナンジャー	愛媛県
	Mother earth.	今治市		お鬼楽塾	鬼北町
7 35room	吉賀町柿木公民館	島根県	16	別大ブック	大分県
	伊予の伝承文化を学び伝える リーダー村	大洲市	ミュージック room	きらくま (ことばとつくる)	久万高原町
	CIL星空	松山市		子どもの居場所作り支援隊「えがお」	松山市
8 36room	特定非営利活動法人おむすび	島根県	17	喜入マナビプロジェクト つわぶき	鹿児島県
	国立大洲青少年交流の家 法人ボランティア	大洲市	スポーツ 研修室	NPO 子どもサポート ほがらか	松前町
	poco pono COCO	伊予市		伊予市の海をきれいにし隊	伊予市
9 オリエンテーシ ョンroom	島根県立大学地域政策学部	島根県			
	大和自治会	大洲市			
	ごごしまキッズクラブ	松山市			

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネット

松田 考・辻 幸志(全国)



社会による子育てを目指した居場所運営

「ソーシャルペダゴジー＝社会での子育て」を掲げて、子ども・若者の居場所「いとこんち」を運営しています。

居場所のほか、緊急宿泊拠点や地域の駄菓子屋など、地域まるごと使って、全ての子ども・若者を育てています。



FC 今治高等学校里山校投資同好会

菊地 春海・河西 航大(今治市)

あなたにとっての「投資」って？を探究！

開校 2 年目の FC 今治高等学校里山校で立ち上げた、FCI 生対象の同好会活動です。

「ノーリスクで投資を行い、多面的な意見が実践につながる場」を目的に、「投資って何？」という問いへの自分なりの答えを見つけることをビジョンとしています。

お金・消費することが目的となっている資本主義から、共感やつながりを重視する価値観への変化が進む中で、その資本主義の先頭を走るような「投資」とどのように向き合っていくか。

基礎知識のインプットやシミュレーション投資などから、「投資って何？」という問いに近づいていっています。

一般社団法人 Umidas

関根 麻里(愛南町)



愛南の地域と人を繋ぎ、新しいをうみだす

一般社団法人 Umidas は、海業の取り組みからあったらいいなと言う声のもと、観光・教育・飲食・産業といろんな分野をつなぐ愛南町初の中間支援組織です。

地域の多様なプロジェクトをサポートする空母艦になれるよう、地域と人のつながりとお金を生み出すことを目指しています。

2025 年の 3 月に立ち上がり、現在は、町外には 20 年間町内の学校で行っていた『ぎょしょく教育』のプログラムで観光客を呼び込むツアーの造成・実施準備、町内では、横のつながりを強化しながら、町民にまずはウミダスを知ってもらう活動をはじめました。

NPO 法人アクションポート横浜

高城 芳之(神奈川県)



若者と NPO をつなぎ、まちを盛り上げる

アクションポート横浜は、「まちにたくさんの主人公を！」を合言葉に、若者と地域・NPO をつなぐ中間支援組織です。大学生を対象とした NPO インターンシップ事業をはじめ、地域活動に参加するきっかけづくりや、NPO の広報・人材育成のサポートを行っています。学生にとっては社会の現場で挑戦し、成長できる場を提供し、NPO や地域にとっては新しい担い手との出会いを生み出すことが特徴です。毎年数百名の学生が活動に参加し、まちの多様なプロジェクトに関わっています。若者と地域の双方が学び合い、共に未来をつくる場を育てています。若者の活動を掲載した「横浜アクションマップ」も是非ご覧ください。



久米わくわくチャレンジサタデー

矢富 綾乃・山極 宙輝(松山市)

愛媛大学教員志望学生による子どもの学びづくり

久米わくわくチャレンジサタデーは、2005 年から松山市の久米公民館、久米小学校、愛媛大学が連携し行っている取組で、年に7回、土曜の午前中に 5、6 年生約 30 名を対象に、約 40 名の教職志望の大学生が授業や人間関係づくり、全体遊びの各時間を企画・準備・運営しています。活動の最後には、「感想シート」を子どもに記述してもらい、そのフィードバックから次回の活動に生かしています。また、毎回の活動終了後には協議会というリフレクションの場を設け、主担当の学生が意図や自己評価を述べ、大学教員や指導助言教員、久米小学校教員、地域の方々からの評価や助言を受けて、教職に向けた成長と学びを重ねています。

一般社団法人みんなのまなびや

栗石 まどか(上島町)

上島町の教育とまちづくりの団体です

みんなのまなびやは、教育と地域活動、移住定住支援を通じて上島町の未来を地域住民とともににつくっていくことを理念として、上島町の地域おこし協力隊 OB によって 2024 年 11 月に設立されました。上島町の未来をつくる活動を支え、意志ある活動者の思いを実現できるように支援します。

今年度は、上島町からの委託を受けて弓削高校魅力化プロジェクトと地域おこし協力隊事業の後方支援を行っています。今後は、世代をこえた生涯学習や交流の拠点となるような居場所づくりや上島町のゆたかな自然環境を活かした体験学習の機会創出などにも取り組んでいきたいと考えています。

ヨコハマゼロワン

青木 祐弥・露口 遥菜(神奈川県)

Green Expo をマイルストーンに横浜市の未来を創る

「横浜の未来をキミの手で！」をスローガンに、中高生大学生が主体となり、持続可能な横浜に向けた活動「ヨコハマゼロワン」が始動！2025年3月のフォーラムでは「横浜の未来を背負う世代として、大人を巻き込み、若者主体で0から1を築き、これからの横浜を創っていきます」と宣誓、学校や地域の垣根を越えて、議論・提案・企画実践に繋がっていきます。横浜市政策経営局との協働事業として2027年横浜市で開催される Green Expo への参画も予定しています。

宇和地域づくり活動センター

玉ノ里 純平(西予市)



南予最大級の小学校児童に最大級の体験を届けたい。

少子高齢化の影響が色濃い愛媛県南予地区において、児童数 417 名(令和7年4月1日時点)が在籍する「宇和町小学校」。その地区を担当する宇和地域づくり活動センターでは、様々な体験を小学生に向けて提供するために日々尽力しています。

4泊5日間親元を離れてセンターで暮らし、自分たちで調理洗濯掃除等をする「通学合宿つばめ村」。子どもたちの夏を特別なものにする「なつやすみまなびプログラム」。宇和に伝わる宇和町音頭を未来に繋ぐ「盆踊り広め隊」など、なるべくたくさん子どもたちがこの宇和町で過ごした良い思い出が残るように、多様な内容・参加のしやすさ等を意識して事業を実施しています。

Core-KUMA

小田 哲志(久万高原町)

久万高原町の地域創生活動

本会は、会員それぞれの得意分野(芸術、教育、文化、森林環境など)で久万高原町の町おこしに資する取り組みをしようということで発足しました。

本年度、既に実施した愛媛大学主催「黑板アート 25」では、会員が実行委員となり企画、運営、資金面の支援を行いました。8月最終週に町内の小中学校3校で23名のボランティア作家の皆さんが23黑板に作品を密かに制作しました。9月1日始業式の朝、このサプライズプレゼントに各教室では登校してきた子どもたちの歓声が響きわたりました。この他にも、本年度は「岩陰文化の里再発見プロジェクト」や他団体「ひとときのもり」とのコラボで木工・森あそび教室を実施する予定です。

分散会 4

24room

ファシリテーター 森脇 和夫
記録者 高田 容弘

あおばコミュニティ・テラス

佐野 碧・石川 南(神奈川県)



ボランティアをきっかけにまちづくり活動へ

あおばコミュニティ・テラスはサードプレイスであり、ボランティア活動やまちづくりに参画できる場です。身近な気づきから問いを立て、共通の課題意識を持った人で話し合い・リサーチ・実践を重ね、青葉区長への提言につなげます。そのプロセスでチームになり、当事者意識を高め市民性の醸成につながっています。

夏休みにユーストライ(地域ボランティア活動)として駅前通りの清掃活動に参加したことがきっかけで、参画度を高めていくプロセスを発表するとともに、伴走する大学生の深い学びが見られます。地域における世代を超えた交流、学び、体験の持つ可能性を広げています。

双海地区公民館

奥村 宗明(伊予市)



双海の子どもは双海で育てる子ども教室

双海町こども教室では、「ふるさと体験塾」「おもしろ大作戦」「わくわく生活体験夕焼け村」を中心に「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に活動しています。地域のさまざまな方々の協力を得てふるさと双海を愛し誇りに思う子どもたちを育てたいと思っています。

今回は、通学合宿「夕やけ村」を中心に他の行事やボランティアグループ「ジュニアリーダー会」との関わりも含めて報告させていただきます。

立花地区睡蓮会

砂田ひとみ(今治市)

婦人会を再結成。地域活動に励む楽しい場に老若男女が集まる。

6年前いつのまにか消滅した“立花地区婦人会”。

理由は、会員の高齢化と引継ぎ相手がいないこと。

そんな中、3年前偶然の出会いで再結成(名称新たに)することになった“睡蓮会”は、働きながら、子育てしながら、介護しながら、終活しながら、趣味を極めながら、共に楽しみ集い発見する場を協力し合って地域に提供しています。

男性会員や子ども会員もあり、それぞれの得意分野や専門性、ネットワークをフル活用させ、企画会議・買い出し・準備に取り組む。例えば、防災訓練炊き出しメニューの考案、地域イベントにお楽しみバザーを出店、子ども食堂、そうめん流し大会、ハロウィン・パーティー等、常に面白さを追求した活動を皆で担っています。

津山「体験の風」実行委員会

小椋 聖也(岡山県)



ない×3 ～つやまキャンプのない事例～

津山「体験の風」実行委員会では、子どもに足りないと言われる「三間:空間・時間・仲間」を解消するために、

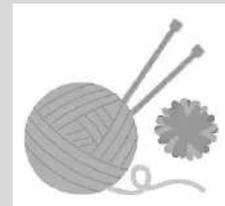
- ①空間「個性を発揮できる自由な居場所」
- ②時間「お小遣いを貯めて挑戦できる非日常体験」
- ③仲間「異学年・異学校の友だちとの一期一会」

をミッションに掲げて、岡山県津山市を拠点とした宿泊体験活動「つやまキャンプ」を1年中実施しています。

個性豊かな内容の「つやまキャンプ」ですが、その中でも特に教育効果が高く、人気の事業には「ない」という共通点がありました。

公民家サークル毛糸の会

小椋 さやか(東温市)



編み物を通して対話生まれる多世代交流

農家の納屋を地域に開く、いわゆる「家開き」をしている素敵な場所があります。いつもは納屋図書室として解放されていますが、ある時はギターやマンドリンに合わせて楽しく歌い、カリンバを練習し、ボードゲームを楽しみ、絵本を読み聞かせし、選書を持ち寄っておしゃべりし、お茶しながらのみんなの学びと交流の場になっています。

毛糸の会は「押し入れに眠っている毛糸を誰か一緒に編んでくれないかしら？」という呟きから始まりました。はじめは不定期で月1回、それが月2回に、そして月3回に。スタートして約2年、開催回数は50回を超えました。小学生から90歳まで、女性も男性も、編み物は、ほっこりした時間を作ってくれます。

コミスクえひめ八幡浜支部

寺坂 俊一(八幡浜市)



CS 啓発事業と地域の学び舎事業

一般社団法人コミスクえひめ(宇和島市)の活動方針に共感し、4年前に八幡浜支部を立ち上げ、活動を始めました。地域へコミュニティ・スクールを啓発するための通信の発行等によるCS 啓発事業と、小規模校でも受験できる漢検の実施、ドローンを使ったプログラミング教室・講習の開催、児童クラブの運営参画等、学校や地域からの要望に応える事による”地域の学び舎”事業を2本柱として、子どもや地域の方々のためにいろいろな活動を展開しています。

NPO おのみち寺子屋

木山 弥優・小北 みなみ(広島県)



小学生が4泊5日を掛けて尾道市内100km を歩き抜く事業

8月中旬に4泊5日を掛けて、小学4年生から6年生までの100名が尾道市内100km の道のりを歩き抜く事業です。小学生のサポートは大学生及び高校生のボランティアスタッフが当たり、彼ら学生スタッフは5月から8月まで事前研修を13回受講します。そして、事後研修を2回実施し、学びや気づきを自らの夢の実現につなげています。

また、地域の方と協働でコース整備を行うなど、地域コミュニティの活性化にも寄与しています。

その他、学生スタッフは1年間を通じて研修を受講し、自己分析・他己分析、また、ライフプラン、ライフラインチャートの作成等を通じて、人生100年時代に向けたライフシフトについても学ぶ機会になっています。

愛媛県立上浮穴高等学校 くまもるず

渡邊 瑛太・橋口 清花(久万高原町)



在来作物を Re:デザインして未来へ継承！

私たち「くまもるず」は、久万高原町の在来作物である「久万大豆」・「地雑穀」の継承と普及に取り組んでいます。昨年は雑穀カレーの素「ぷちきびカレー」を開発、ふるさと納税返礼品に採用されるなど、在来作物の Re:デザインに成功、新たな価値を作り出しました。

今年は、在来作物の栽培を地域に普及させていくため、地域農家へ久万大豆を 10,000 粒以上配布しました。また、大豆の根、根圏土壌に含まれる放線菌に着目し、近年世界的に増加している乾燥地、塩害地での栽培に放線菌の力を活用できないか、人間環境大学の先生と共同研究に取り組んでいます。

これからも地域資源を Re:デザインしていき価値の再構築を進めていきます。



Mother earth.

越智 友美(今治市)



自然と地域の子育て拠点

Mother earth は、民間の児童クラブおよび認可外保育園として、子どもたちが自然の中でのびのびと遊び、学ぶ場を提供しています。

川で泳いだり、海辺で砂や石を使った工作をしたり、森で木の実を集めたりと、何も無いところから遊びを広げながら身体能力や創造力を育みます。

また、川で拾った石を使った作品の制作・販売や、自分で作りたいものを調理する体験を通して、生きる力を身につけます。小学生が園児のお世話を自然に行う異年齢交流も行い、親戚の家のように温かく、地域と共に子どもたちの未来を育む活動を展開しています。

吉賀町柿木公民館

円山 洋輔(島根県)



LINE



Instagram



YouTube



note



地域全体で子どもを育てる

【公民館は可能性の塊!!!】

吉賀町は人口 5,500 人程度のとても小さな町です。公民館は全国に 13,000 館あると言われてはいますが、まだまだマイナーな世界です。特に吉賀町のような小さな町においては「公民館」が地域づくりの中心的存在で超重要な存在です。町長が「公民館を核としたまちづくり」を施策に掲げるほどです。

さらに、教育委員会が「地域全体で子どもを育てる」気風を育て、公民館を中心に社会教育活動が展開されている現状となっています。

今回の発表では、柿木公民館の取り組みを紹介させていただき、公民館の魅力を皆で分かち合う時間にしたいと思います!!!

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村

山野 結衣加・寺井 そよ菜(大洲市)



伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村

大洲市と西予市を中心に大学生が伊予の伝統文化を学びながら小学生に伝える5泊6日のプログラムです。この事業は、学生自らが企画・運営をすることで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成することがねらいとなっており、今年度で 19 年目を迎えます。前半3日間でリーダーシップや小学生への接し方、集団作りの技法、伝承文化等について学びます。

後半3日間は大洲市や西予市周辺地域の素材を用いて小学生に伝承文化を伝えます。大学生は子どもたちとの関わりを通して、子どもたちの成長の変容を実感できることはもちろんのこと自分自身の成長も実感できました。

CIL 星空

高橋 愛実・浅沼 裕子(松山市)



HP



Instagram



Facebook

地域の学校等における福祉学習

当団体は、大きく 2 つに分けて事業を展開しています。まず、ピア・カウンセリングや相談業務、ヘルパー派遣事業等を通じて地域で暮らす障害者に対する自立支援を行っています。そして、もう 1 つが、障害理解促進に向けた啓発活動です。その中で、10 数年にわたり地域の学校等における福祉学習実践へ愛媛県全域で取り組んでいます。

この取り組みを通じて、社会モデルの考え方も含め実際に障害当事者が学校等へ出向き関わらせてもらうことでインクルーシブな社会の実現に向けて取り組んでいます。

特定非営利活動法人おむすび

大畑 伸幸(島根県)

益田市ひとづくり次世代発、大学生キャンプ

益田市のひとづくりでは「好循環」を目指して10年。学校外のさまざまな活動を体験した子どもたちが、益田を巣立ち活動を始めました。その中で小学生時代地域での活動に触れた子どもが、その活動の楽しさに目覚め、中高生時代はスタッフとして活動に関わりました。そして、大学生となり、益田出身の大学生とともに各地の大学生に声をかけ、益田市での「大学生ワークキャンプ」を企画運営。

個性的な、面白い、少し変な「益田の大人」に出逢わせることを目的に実施しています。

国立大洲青少年交流の家法人ボランティア

大山 順平・島田 咲絵(大洲市)



法人ボランティア自主企画

大洲青少年交流の家では、様々な教育事業で多くの「法人ボランティア」が活躍しています。今回主に紹介する自主企画は、法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら成長していくための事業です。この事業は、法人ボランティアが小学生を対象とした事業の企画・運営を行うことで、ボランティアの積極的な関わりが意欲向上につながることを目的としています。

9月末現在、企画運営中であるが、ボランティア同士がアイデアを出し合いながら実地調査や打合せを行い、よりよい企画になるよう工夫をしています。

poco pono COCO

太田 聡美(伊予市)



伊予市内にてご家族の居場所づくり

poco pono COCO では【愛媛県内の不登校に悩む保護者の孤立をゼロに】という目標を掲げ、伊予市内にて不登校のご家族の居場所づくりをしています。伊予市中山町の古民家での居場所づくりをベースとして、月に1回は伊予市内で、月に2回はオンラインで居場所をつくっています。

団体の活動内容は主に3つです。

- ①居場所づくり(田舎で/マルシェで/オンラインで)
- ②不登校の保護者のつながりづくり(お話会で/LINEで/交流会で/冊子で)
- ③不登校への理解の促進(地域の方向け/支援者向け)

学校に行っても行かなくても、子どもたちが地域の中で学び育つことができるように、これからも取り組んでいきます。

島根県立大学地域政策学部

三浦 凪(島根県)



「学びは地域の中にある」

“過疎発祥のまち”と呼ばれる島根県益田市。益田市はライフキャリア教育やひとづくりに力を入れています。そんな益田で育った私は、小学6年次に参加したプロジェクトをきっかけに地域に興味を持ち、以降、ご当地アイドル活動やローカルテレビとの共同番組づくりなど、さまざまな取り組みに携わってきました。現在は島根県立大学地域政策学部で学びながら、中高生を対象としたイベントの企画・実行や、益田市総合振興計画審議会委員の市民代表も務めています。益田の魅力を再発見しつつ、地域の未来に向けた関わり方を模索しています。

今回の発表では、私自身がどのように地域に育まれてきたのか、そしてこれからの関わりについてお話しします。

大和自治会

篠崎 せいら(大洲市)



34年続く地元の高校3年生主催「夏空まつり」

「私らが小学生で参加した時こんなことしたよね!」「私らみたいに記憶に残ることしたい!!」

今年度「夏空まつり」を主催してくれた高校生は自分たちが参加した時の楽しかった思い出、そして小学校での懐かしい思い出を話しながら参加者が楽しめるような企画を考えてくれました。

そんな“あの頃の楽しかった思い出”が34年の時を繋いできていること、繋いでくれていることに感謝しているとともにこれからも大切に繋いでいきたいと感じます。

ごごしまキッズクラブ

高橋 伸一(松山市)



「何もない島」から「子育ての島」への挑戦

週末になると公民館が閉館となるため、赤ちゃんのおむつ替えの場所もなく、猛暑の日には日陰で涼む場所のなかった興居島で「ごごしまま」という活動をはじめたことで、少しずつ子育て世代を応援する声を増やしてきました。

また、代表者(高橋)は2023年4月から松山市地域おこし協力隊として東京都八王子市から移住し「子どもたちが元気な興居島」をモットーに「ごごしまキッズスクール」を開催し、小中学生の居場所づくりを行ってきました。これらの二つの活動を一つにして島の全ての子どもたちを元気にしていきます!

南部町家庭教育支援チーム「スマイルサポートなんぶ」

田邊 由紀・泉 絵梨子(鳥取県)

新小一全家庭訪問、懇談時の保護者カフェ

南部町は人口1万人弱の鳥取県西部にある町です。わが町には、令和7年度の小学一年生は 61 名(家庭数:58 家庭)います。南部町家庭教育支援チーム「スマイルサポートなんぶ」は、その全家庭を年3回訪問し、保護者の不安や子育てに係る心配や悩みなどを伺い、保護者とともに少しでも軽減し解消に向かえるよう活動しています。今年度は、新たに学期末懇談時の学校の一室を借り、保護者対象の「スマイルカフェ」を実施しました。

設立のきっかけ、目的、成果、課題、今後の展望等についてお話をさせていただきます。

岡田小学校 おやじの会

三好 寛幸・長島 祐介(松前町)

学校行事のお手伝い・イベント開催

岡田小学校おやじの会では、有志あるおやじが集まり、学校行事をサポートしたり、子どもたちと保護者や、地域との交流を広げることを大切にイベントを開催しています。また、おやじ同士が力を合わせて準備や運営を行うことで、自然に仲間意識も深まり、いい関係を築くことができます。行事当日には子どもたちの笑顔や成長を間近で感じられ、一緒に喜びを分かち合えるのも大きな魅力の一つです。

親子で楽しめるイベントを通じて、子ども達の学校生活をさらに豊かにしていきます。

チーム Save Our Future

松本 果澄・高市 真歩(松山市)



松山工業高等学校で防災啓発活動してます

私たちチーム Save our future は、2018 年から「SDGs×地域防災～みんなで守る地域の未来プロジェクト～」を立ち上げ、保育園から高校生までを対象にした防災出前授業や防災カードゲームなどの教材の開発、各種イベントでの防災啓発活動などを行っているボランティアチームです。

我々のプロジェクトは、幼児を対象とした簡単で分かりやすい防災体操の開発した。防災クイズやマイタイムラインカードゲームを活用した出前授業にも取り組んでいます。

また、英語版マイ・タイムラインを作成し、これを活用した外国人への避難についての啓発活動、遠隔地でも防災交流ができる防災オンラインゲームの開発等を行いました。

まんま会

貞平 理恵(山口県)



居場所:こころの銭湯 ☼「まんまある」

2011年「ありのまんまの自分を大切に」をコンセプトに「まんま会」を立ち上げ、映画上映、おしゃべり会、コンサート等を開催。2022年、元銭湯をリノベーションし「子どもも大人も心が軽くなる」こころの銭湯 ☼「まんまある」の運営開始。子どもたちのまんまスクール、大人の道徳授業、寺子屋、マルシェ、ライブや上映会等、子どもからお年寄りまで心から楽しめて、楽になって帰れる居場所を目指しています。

代表は小学校の教頭をしながら、休日はまんまあるの活動や、全国各地に「あなたがあなたであることに価値がある」と講演。「自分のまわりにごくらくを創る人が増えてほしい」と願う仲間たちと共に日々愉しく活動中。

愛媛県立三崎高等学校

佐藤 出帆・横山 紗華(伊方町)



普通だけど普通じゃない地域に根ざした学校

三崎高校は、日本一細長い佐田岬半島の先端にある四国最西端の学校です。愛媛県で高齢化率が2番目に高いこの町に、毎年全国各地から多くの入学生が集まっています。

三崎高校(みさこう)生は地域の一員として、日々地域で暮らし、地域で遊び、地域で学んでいます。この地域ならではの面白さを掘り下げたい、この地域での発見を発信したい、この地域の課題を解決したい。みさこう生のワクワクドキドキ、汗と涙と笑顔にあふれた活動をぜひご覧ください。

みんなで人権を考える会「ころん」

西山 博・吉田 和仁(今治市)

人権啓発劇上演と人権・同和教育研修会開催

平成22年に「何かやりたいね」と話し合い、本会を立ち上げました。コロナ禍で2年休みましたが、平成23年から地域の課題を取り上げて、今治市中央公民館で人権啓発劇に取り組みました。平成25年からは、今治市・越智郡の小・中・高校に案内をして、人権・同和教育研修会を開催しました。目標は、①部落差別の解消、②社会貢献、③差別をなくす仲間づくり。部落問題、高齢者、障がい者、いじめ、性的マイノリティなどの人権課題に取り組んできました。劇では、前半上演、後半は「ふれあいトーク」でスタッフと会場参加者が意見交流を行い、テーマを深めています。研修会は、部落問題を中心に様々なテーマを決めて、分からないことが気軽に聞ける会にしてみました。

四国まなび未来ネットワーク研究所

赤松 梨江子(徳島県)



CS 推進支援と地域の子育て・不登校応援サロン

2016 年から文部科学省 CS マイスターを務める代表は、地域とともにある学校づくり推進のための学校支援、教育支援活動を徳島県内外を問わず行っています。

また、徳島県東みよし町内のコミュニティ・スクールでは、学習支援や居場所づくり、環境整備等に関わってきました。その中で、子供の居場所づくりについて、学校にとどまらない地域の中での居場所の必要性を強く感じ、2023 年に「子育て・在宅の子(不登校)応援サロン カフェブルースカイ」をオープンしました。公式 LINE による相談や情報提供をはじめ不登校の子どもたちやその保護者へ居場所の提供等のサポートを行っています。

子育て応援団あい♡いく

田村 ひろみ・玉井 利江(松山市)



子育てサロンや家庭訪問型子育て支援を実施

2023 年に「子育ての応援がしたい！」と、メンバーが集まり、「子育て応援団あい♡いく」が結成されました。親子が集えるサロン(遊びや語り合い)や子育て講演会を開催してきました。

2025 年には愛媛県で初めてのボランティアによる家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・あい♡いく」の活動準備を始めました。11 月中旬に「ホームビジター(ボランティア)養成講座」を終え、12 月から実際にボランティアによる家庭訪問活動が始まります。ホームスタートの目的である「子どもも親もそして地域の大人たちも、共に育ちあう関係」を目指します。



まつやま俳句でまちづくりの会

キム・チャンヒ・近藤 拓弥(松山市)



俳句を活用したイベント等を行っている会

「俳都」とも呼ばれる松山市。しかし俳句は、難しく敷居の高いものと思われがち。本会は、そんなイメージを払拭するような俳句イベントを開催し、人々の交流を補助したり、地域の魅力を再発見することに寄与する活動をしています。

例えば、地域の夏まつりでの俳句大会や自分で漉いた和紙に自分の俳句を書くイベント、小学生を対象としたバスツアーや地元のミュージシャンと俳句のコラボ公演などなど。俳句を「明るく」「楽しく」「カッコよく」体験できる企画を行ってきました。「俳句で街の風景を変えよう」と、年齢も職業もバラバラなメンバー達が集まった本会の挑戦の数々を紹介いたします。

BG kids (ビジーキッズ)トクシマ

中西 裕子・岩木 太郎(徳島市)



ボードゲームなど室内ゲーム文化の普及活動

ボードゲームやカードゲーム、謎解き、TRPG などの室内ゲームが趣味の大人が集まった、「徳島ゲームストリート」というイベント情報共有コミュニティの中で、子供の居場所にボードゲームや謎解きを普及させる目的で結成されたボランティア団体です(2022年10月発足)。

児童館、学童クラブ、学校、子ども食堂などへ出張してゲーム会をしたり、四国大学ボードゲーム部(顧問は四国大学の職員で当団体の副代表)や徳島大学の学生ゲームサークルと共催でゲーム体験イベントを開催しています。

毎年千タイトル以上発売されるボードゲームの勉強会やボードゲームの社会的効果の考察など、日々ボードゲームについて研究し精進しています。

こども家庭センターat 高齢者大学

平井 栄理子(松前町)

普段は子育て支援していますが、今回は…

こども家庭センターは子育てで家庭やこどもに関する相談・支援を行う行政機関です。

松前町では令和7年度から設立され、教育機関や保育施設等と連携しながら、母子保健と児童福祉支援を一体的に行い、松前町で生活するこどもとその家庭を総合的に支援しています。

そんな部署に所属し、保健師として働く私が、この夏とある依頼を受けて行った、高齢者を対象とする高齢者大学での”over the border”な取り組みについてご報告と今後の展望についてお話しします。

ひらの未来塾

福本 政代(大洲市)



ひらの未来塾(夏休みの学習支援)

ひらの未来塾は、2 学期をスムーズにスタートできるように、子どもたちの夏休みの宿題などの学習支援を目的に始まり今年で 4 年目です。この活動は、子どもたちだけでなく卒業生や学生ボランティア、地域へ影響を与えながら、毎年進化しています。

一般社団法人 もうひとつの大きな家族

野村 ゆかり(高知県)

だれもがほっとして笑顔になる居場所づくり

ほっと笑グループは、「ほっと笑」「ほっとふれいす」「ほっと笑ファーム」で構成され、社会的包摂を重視し、すべての人々が健康的で幸せに暮らしを享受できるように支援します。

赤ちゃんからお年寄りまでを対象として、子ども食堂・子育てサロン・地域サロン、月 2 回のイベントを行い、笑顔と会話があふれる多世代交流のできるサードプレイスになることを目指しています。ちょっとしたお困りごとや食支援・生活支援も行っています。

学生団体ブーメランカレッジ

井上 弘一朗・高田 貞治・濱遊 玲音(南予地域)



「ふるさと」を問いつける学生団体

ブーメランカレッジは、愛媛県南予地域出身の大学生が中心となり、地元の中高生と共に「ふるさと」の価値を再発見し、次世代へつなぐ学生団体です。名前は「一度外に飛び出しても、ふるさとに還る」ブーメランの姿に由来します。

夏の「わたしとふるさとゼミ」では、地域の人や自然と触れ合いながら学ぶ 3 泊 4 日のプログラムを企画・運営し、中高生に挑戦や自己発見の場を提供。大学生にとっても、企画力や交渉力を実践的に磨ける機会となっています。今後はインターンシップやリクルート事業にも力を入れ、地域と若者の未来を育む取り組みを進めていきます。

河之内稲作体験としめ縄づくり

浅野 和雄・田房 克寿(東温市)

東谷小学生との稲作体験としめ縄づくり

2010 年から子供たちに稲作の大切さや楽しさを知ってもらうため、東温市の東谷地区(河之内)で稲作体験を行っています。東谷小学校と協働で行う稲作体験では手作業で稲刈りをして束ねて稲木に干します。その後、正月飾りのしめ縄づくりも行います。新型コロナウイルスの流行により開催が危ぶまれたこともありましたが、密を避ける工夫をしながら続けてきました。

2023 年には干支の「辰」にちなんで、その稲わらを使用して龍を模ったしめ縄を製作しました。作業には東谷の小中学生や大学生が参加して地域の伝統や文化を知ってもらい地域への愛着が育まれるよう活動しています。完成した龍はみんなで担いで惣河内神社の拝殿に奉納しました。

高知大学地域協働学部大槻研究室

大槻 知史(高知県)



Light up the Life! 須崎に希望の灯をともしよう

高知県須崎市須崎地区では、南海トラフ巨大地震の被災想定が公開されて以降、地区の沈滞が進んでいます。このような状況の中、住民の地域愛着を高めながら津波避難を促進するために 2024 年度より夜間避難訓練と重ねた津波避難高台・タワーのライトアップを行なっています。

地元小・中・高校によるライトアップのデザインや飾り付けを通じて、児童・生徒や親世代、防災への関心の低い市民が楽しみながら訓練に参加する機会を提供しています。合わせて自主防災組織メンバーや防災担当部署職員と一緒に夜間滞在訓練を行うことで、津波避難後の災害関連死を防ぐための環境整備のきっかけを提供しています。

なんよナンジャー

菅 華守民(愛媛県)

出合いを未来につなげる取組

私たちなんよナンジャーは、昨年(令和 6 年)の夏、愛媛大学で開講された社会教育主事講習で出会いました。グループ演習・現地演習を通して、ともに学ばなかで仲を深め、いいチームに成長することができました。メンバー一人ひとりの個性も豊かで、バランスのとれたチームです。

講習を終えた現在、それぞれが離れた場所にはいますが、「ここをひとつに♡」をモットーに、絶えず、交流を続けています。

今回は社会教育主事講習中やその後の様子を踏まえ、出合いを未来につなげる取組について、お話できたらと思います。

お鬼楽塾

浅越 聖光(鬼北町)



学び・体験・憩いの場の創出

鬼北町公営塾「お鬼楽塾」は、よくある進学塾とは変わった塾。普段の勉強から定期考査・受験サポートだけでなく自分の興味・関心への一步をサポートする体験活動に加え、気楽に来て気楽に過ごせる居場所でもあるのがお鬼楽塾。学校や町と連携をして活動の幅が広がることもあれば、家でも学校でもない自分たちの居場所だからこそじっくりマイペースに様々なことに取り組むことができる場所。一般的な“塾”という名に、概念にとらわれないのが鬼北町にある「お鬼楽塾」です。

別大ブック

古江 昭宏(大分県)



本の卸売、販売を本業とする傍らで移動本屋スタイルで地域と人を繋ぐ

ワゴン車に本棚と子供の本を250冊程積んで、書店の無い郊外地に移動本屋を行う活動を行っています。子育て世帯に喜んでいただく目的で開始した本活動ではありますが、近年は、学生達にも集ってもらって、読み聞かせをしています。

これを繰り返す事によって、学生達が、人と繋がることへの喜びや自己成長を実感しているようです。地域交流、世代交流への貢献に手応えを感じている最中です。

きらくま(ことばとつくる)

チェンシー 未明 フィデリア・野口 瑠月(久万高原町)



高校生のやりたい！から久万高原町を元気に

久万高原町を拠点とする高校生の地域活性化プロジェクト「きらくま」は、上浮穴高等学校の普通科・森林環境科の垣根をこえて自由な活動をしたいと4年前にスタートしました。現在、学校だけでは広がりきれない部分を「ことばとつくる」が支える形となり、久万高原町だからできる豊かな活動をしています。「高校生が本気でやりたいこと」を主軸に、毎週火曜日の「ことつくのば」で、現在21名の上高生が活動中です。

型にとらわれないその活動は、ふるさと納税返礼品にもなっている上高スパイス開発をはじめ、町や学校のPR動画制作・各種コンテスト入賞・富士吉田視察など、活動そのものが町の魅力となり、高校生の自信につながっています。

子どもの居場所作り支援隊「えがお」

関 芳子(松山市)



人と共に生きる自立した子どもを育てる場所

くめっこ広場は、単なる学童ではなく、地域の多様な大人たちが子どもと関わりながら、子どもたちが「愛されて生きていく力」を育む場を提供することを目的としています。物を大切にする心や感謝の気持ちを学びながら、子どもも大人も本気で楽しめる場を目指します。

喜入マナビバプロジェクト つわぶき

東 琴乃(鹿児島県)



喜入にマナビバを

鹿児島市喜入地域で小中高生の学びのサポートを目的に 2021 年から活動を開始しました。喜入中学校の定期テスト前に無料開放型自習室の開設や天体観測会や高校相談会などの企画・運営、他団体と連携した地域活動に取り組んでいます。中高生が中心となり行っており、卒業生や地域の大人の方たちが中高生の挑戦を支えています。

地域と若者が共に育ち合う、喜び入る学びの場です。

NPO 子どもサポート ほがらか

佐々木 知佳(松前町)



不登校・行き渋りの子どもの居場所づくり

不登校・行き渋りの子どもたちの居場所づくり・学習サポート・家族の息抜きの場づくりを目的に、2023 年 4 月活動を開始しました。加えて現在は地域の交流の場づくりとして、月 1 回程度、地域食堂やイベントを開催しています。また今年度は年 4 回「長期欠席への理解を深める学習会」と題し、各回講師をお招きし、それぞれのテーマに沿った講座を開催しています。

不登校・行き渋りについてまずは知ってもらいたい、そして家庭・学校・地域で子どもたちをあたたかく見守ってほしい、という思いで活動しています。

伊予市の海をきれいにし隊

友澤有希子・高木綾子(伊予市)



大好きな伊予市の海で地域と人との繋がりを広げています

伊方町の漂着ゴミスポットでの海岸清掃にて2メートルもの高さまで積もった海ごみを目の当たりにし衝撃を受け、少しでも大好きな海からゴミを減らしたいと毎月の海岸清掃に参加していました。自分の住む地域の海岸も綺麗にしたいと思う住民が多くいることを知り、誰でも気軽に参加できる形式で地元の五色浜海岸にて月1回第3日曜の夕方の海岸清掃を始め、毎月継続しています。この活動により、人だけでなく他の生物や自然に感謝をもてる体験の場所となっています。

また、住む場所に愛着を深め、地域との繋がりを作ることで安心して住める街づくりやボランティアを通した生きがいづくりなど、喜びや幸福を実感できる場所となることを目指しています。

仙波―設立当時は、参加児童の募集は小学校に任せていました。事業が認知された3年後からは、募集も企画も大学生が行うようになりました。学校の負担も減り配慮の必要な児童も参加してくれています。学生が自主運営することが評価され、その後、愛媛大学に教育支援ルームが設立されました。文科省の助成がなくても、持続できるようになったことはよかったです。



久米わくチャレの様子

柿本―今年は8月8日から12日まで、第23回おのみち100キロ徒歩の旅、おの100挑戦隊『感動創造の旅』と題して開催しました。9月に行った事業報告会では、仲間との再会の喜びと共に完歩して自信に溢れた子どもたちがいました。近年は市外から参加する小学生も増えました。また、23年間続けていると、学生ボランティア同士で結婚したカップルも30組を超えました。事業に使用する備品は、自宅の倉庫に入れていましたが、数年前に自宅近所の倉庫を借りて、空いたスペースは事務局にするとともにサードスペースとして学生にも開放しています。

仙波―もともと、文科省の「子ども居場所づくり」の一環でした。久米から2年後に八坂と東雲小を対象に松山市青少年センターで愛大わくチャレが始まりましたが、公民館主事の異動が多く、学生の負担が大きくなったこと、児童が通うには距離があったこと等で、9年後に閉めることにな

りました。現在は、久米小学校のみで愛大地域連携実習として行っています。関係者が無理な負担がかからない仕組みとコーディネーターが大切だと実感しています。



歩く…歩く



おの100キロ 表彰式

まちづくりそして人づくり

柿本―自分たちのまちは自分たちで創る。そのような若者が育つように事業を行っています。苦しいからこそその発見もあり、自分の住んでいる地域を大切なものとして認識していくことにつながると信じています。自分の人生の主人公は自分、一歩前進すれば自分の夢が実現できる、そうしたことがこの事業によって伝えられたらと思っています。

仙波―本当にそうですね。久米では、学校の施設は地域の大きな資源でありながら、中々開放してもらえなかった。大学と大学生というツールで可能となりました。久米小学校の児童も、わくチャレを通して、異年齢の子どもたちや大学生と関わる力をつけることができていると思います。大学生も、長期的に子どもと関わることで、その成長と学級経営のスキルや楽しさを学ぶことができます。久米の子どもたちが、

自分が住んでいるまちが楽しく、また誇りに思えるような仕組みづくりが大切だと考えています。

柿本―課題は後継者がいないこと。社会人スタツプもいますが、事務局は私一人が行っています。給料を支払えばしてくれる人がいると思いますが、無給でこれだけのことをお願いすることはできません。

仙波―同感です。降りようと思っても、次につなぐことができないと、難しい。ボランティアでがんばるためにはかなりの熱量がいると思います。世代が変わって、違うやり方でつなげられればいいですね。

最後に久米わくわくチャレンジサタデー発表者のお2人から



杉野 美音さん・高橋 ひなのさん

杉野―子どもとかかわりたくて、教育学部に入りました。この活動に参加して学ぶことが多く、楽しんでいきます。

高橋―教育というジャンルだけでなく、地域と深くかかわっていく必要があると実感しました。わくチャレは、子どもの居場所づくりとともに学びの場でもあります。地域の人や他の学部の人、いろいろな人と関わることで、新しい気づきがありました。

インタビューダイアログ

NPO おのみち寺子屋(広島県)

12月7日(日)9:00~10:20

久米わくわくチャレンジサタデー(松山市)

発案者の思いとは

まちづくりにかかわりたい
柿本一三十二歳のときに、「まちづくり」をしたいという想いで尾道青年会議所(尾道JC)に入りました。しかし、自分の希望で委員会配属が決まるのではなく、「ひびとづくし」の委員会が続きました。そんな折、日本青年会議所の委員長を拜命することになり、そこで出会った方が「つくし路100キロ徒歩

—今回は、おのみち100キロ徒歩の旅の事業を展開されている柿本さんと久米のわくわくチャレンジサタデーを立ち上げからずっとかかわられている仙波さんにお話を伺います。

一人の地域人として あきらめない



NPO おのみち寺子屋
理事長 柿本 和彦 氏

の旅を開催されておりました。翌年、尾道JC理事長をさせていただいたことをきっかけに、小学生が4泊5日をかけて尾道市内1000キロを歩き抜く「おのみち1000キロ徒歩の旅」を開催する運びとなりました。
仙波—久米のわくわくチャレは、飲み会で愛媛大学の先生と話しているときに、盛り上がり、そのまま「子どもの居場所づくり」の企画を大学のほうに持ち込みました。学校施設を開放し、愛媛大学教育学部の学生が自主企画するわくわくチャレを隔週の土曜日に久米小学校5・6年生を対象に始めました。

学生はどのようにして集めたか
柿本—「おの100」は主催者が学生を募集し、5月からリーダー養成を行った後、8月の「本番」で学生スタッフが小学生をサポートするという2段階のシステムになっています。第2回から実行委員会を立ち上げて開催しました。しかしながら、受け皿となる学生が集まらないと開催できません。それで、2月から学校という名のつく学校をすべて一人で回って募集しました。今では、学生が主体となって募集活動を行っています。
仙波—もともと、松山市PTA連合会の会長をしていたご縁で愛媛大学教育学部の先生とも懇意にさせていただきました。仕事にはタクシー会社を経営しています。時間的には融通がきくため、地域教育に首を突っこんでいます。この事業は愛媛大学教育学部学生をメインに、大学の先生にお願いしましたが、その頃は、地域に出かけるより、

大学の授業をきちんと受けるほうが大切と思われていた先生が多く、様々な圧力が加わったようでした。それでも続けられたのは、この事業に賛同していただいた先生の熱意と久米の保護者から学生への感謝の手紙があったからだと思っています。
柿本—私は大学を卒業して6年半ほどは広島銀行に勤めていました。その後、海運業をしていた父親の会社を継いで船に乗ったり、宅建の資格を取って不動産の看板を上げたりしました。今は損保の代理店をしています。父親の会社に入った頃、尾道JCに入会し、JCを卒業する40歳の年に「おの100」を始め、今に至ります。

企画から運営まで学生に任せるとは

柿本—この事業は小学生の生きる力を育む事業であると同時に、学生の生きる力を育む事業でもあります。いい加減な学生にわが子の命を預ける保護者はいません。リーダー養成では社会が求める人材育成をテーマに、様々な研修プログラムで能力開発やスキルアップを行い、非認知能力も育んでいます。通称「契の会」と呼んでいる保護者説明会では受付から説明まで、すべて学生が担当し、保護者にはこのような学生がお世話をするので正式に申し込んでくださいとお願いしています。



NPO えひめ子どもチャレンジ支援機構
事務局長 仙波 英徳 氏

おでん∞café



12月7日(日)10:30~12:20

今回のお題

なんてたって地域教育!

今年度は、回し人に”いのとん田房”が参戦!
各グループのファシリテーターには、ひとつむぎの学生を新たに迎え、おのみち寺子屋の学生と総勢 32 名と一緒においしいおでんをぐ一つぐつ!
みなさんの明日からのエネルギーをフル充電します♪



回し人

舟田 美加

愛媛県内の公立中学校教諭を経て、平成 30 年 4 月 1 日より
愛媛県教育委員会社会教育課に勤務 社会教育主事

田房 克寿

PTA 活動を経て、昨年度の社会教育主事講習を修了
そこで南予ナンジャーの仲間に出会い、社会教育士 2 年目

素敵なホストは



NPO 法人おのみち寺子屋のみなさん



特定非営利法人ひとつむぎ 元木 紀・中山 知華さん

讃岐幸治氏のおでん理論と world café を組み合わせるとおでん∞café。おでんは、色々な具材と一緒に煮ることで、単独では決して出ない美味しい旨みを出します。みなさんは、おでんの具材と見立てています。一緒に煮こまれて美味しい味を出してください。

World caféとは

Café のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数(5~6人)に分かれたテーブルで自由に語り合います。

一定の時間が過ぎると、ホスト(今回はあらかじめお願いしています)を残して、別のテーブルに着きます。そこで、新たな仲間と話を深めます。(最初のメンバーと重ならないよう移動します)それを何回か繰り返します。

移動可能な自由でオープンな設定により、会話を楽しみ、参加者がテーマをもとにして、相互理解をすることを目的としています。問題解決や結論を求めるものではありません。

ホストの役割は、メンバーに簡単な自己紹介と、前回のテーブルで話された内容を新しいメンバーに説明して、そのことからイメージする発想などを深めること。

最後は、他のテーブルに散ったメンバーが最初のテーブルに戻り、移動先での内容や知り得た情報、さまざまな意見やアイデアを話し合います。さらに、各テーブルで話されたことを全体で共有します。

※内容に優劣をつけたり、結論を出したりするものではありません。ポジティブに相手を受け入れ、心をオープンにして、新しい出会いをたのしんでください。

東中南予ブロック集会

～より地域に密着した実践交流の場として～

各地域では、これから未来を創る人に発表の場を、参加される方には集いの場を提供しています。

ぜひ、参加してみてください。

東予地区

「第9回地域教育実践東予ブロック集会」

青少年発！ 私たちの地域づくり

令和8年1月24日（土）12:30～16:00

新居浜市惣開公民館・惣開小学校体育館

「かかわりをチカラに つながりをつかち」を合言葉に、東予地域で地域活動に取り組む中・高校生の実践を中心に、若者とともに拓く地域づくりについて考えます。

若い力とともに、地域教育に関わるもののつながりを広げていきませんか。



【昨年度のアトラクション・ワークショップの様子】

中予地区

「地域教育実践 中予ブロック集会 ～子ども・未来が輝くシン・地域教育～」

爽やかな風が吹く夏の久万高原町・久万町民館で、7月21日に実施しました！

久万五神太鼓のみなさん、愛媛県立上浮穴高等学校くまもるずのみなさんの実践発表に刺激を受けた約100人の参加者が、それぞれの「シン・地域教育」を語りあいました。

当日の様子を、報告書でぜひご覧ください！



【集会の様子】

南予地区

「ワがまちをワがごとへ～ワっと言わせる南予ブロック集会～」

令和8年2月7日（土） 愛南町御荘文化センター

人口減少が進む南予地域。これからの時代を生きる子どもたちには、知識だけでなく、考え、つながり、行動する力が求められています。南予ブロック集会では、そんな学びを地域みんなで考え、実践していきます。かかりをチカラに、つながりをつかち。未来を一緒に創る一歩をここから始めませんか？

参加団体(予定) 宇和島東高校商業科チーム

内子高等学校小田分校

ワクジマ

南宇和高校「教育課題研究グループ」

愛媛大学で学ぶ南宇和高校2年生

福浦地区自主防災グループ・通称“福浦ギャルズ”

奈良山等妙寺歴史交流館 他



昨年度の様子

よりリアルタイムで

★ UDトーク (Universal Design Talk)

スマートフォンやタブレットを使って、話し言葉をリアルタイムで文字に変換するアプリです。聴覚に障がいのある方や、日本語が母語でない方など、さまざまな人が情報を平等に受け取れるようにするためのツールです。今回、誰もが安心して参加できる場づくりのためにUDトークを導入しますのでぜひご活用ください。ご自身のスマートフォンやタブレットでも参加できますので、参加方法についてはスタッフにお尋ねください。

★ イマキク/スグキク

「イマキク (主催者用)」は、インターネットを使用したリアルタイムアンケートサービスです。主催者は、PCなどから意見収集が簡単にできます。参加者は「スグキク (参加者用)」から「イマキク」に参加します。アプリをダウンロードする必要はなく、示された二次元バーコードをスマートフォンなどで読み込むことで参加し、質問等の投稿ができます。今回は50名の参加が上限となります。

編集後記

曇り空で今にも雨が降りそうな午後、空を見上げると案の定雨が降ってきた。ただそれだけのことであったが、そばにいた5歳の男の子が「これプレゼント」と手の中を見せてくれた。…なにも入っていない。「どこにあるの」と聞くと、「え、見えないの？雨のしずく。ほらここにも」という。

知らぬ間に年を重ね、そんなことにも気が付かなかった自分に愕然とする。

この集会も若い人が増えてきた。1970年代、まだ学生であったころ、吉田拓郎という歌手がいた。彼のデビュー曲は「イメージの詩」その一節に“古い船には新しい水夫が乗り込んでいけだろ 古い船を今動かせるのは古い水夫じゃないだろ なぜなら古い船も新しい船のように新しい海に出る 古い水夫は知っているのさ 新しい海のこわさを”。新しい力の素晴らしさを体感するたび、この詩を思い出す。未知数の可能性を秘めた若い心が傍観者としての私を次の世界へいざなってくれる。そのことが毎年この集会にかかわる所以だと思う。

讃岐先生の「おでん理論」。いろんな具材と一緒に煮込まれて（相互に影響されて）いい味がでるというもの。おでんの具材は様々なものがたくさんある方が美味しくなる。最近、高級おでん屋へ友人と一緒に出掛けた。高級なだけあって、おしゃれな器に一品ずつおでんが運ばれてくる。その一つ一つがたいへん美味しい。一緒に煮込んでも、一つ一つ違う味わいがある。

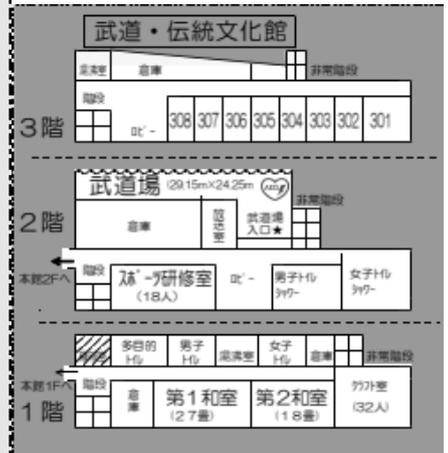
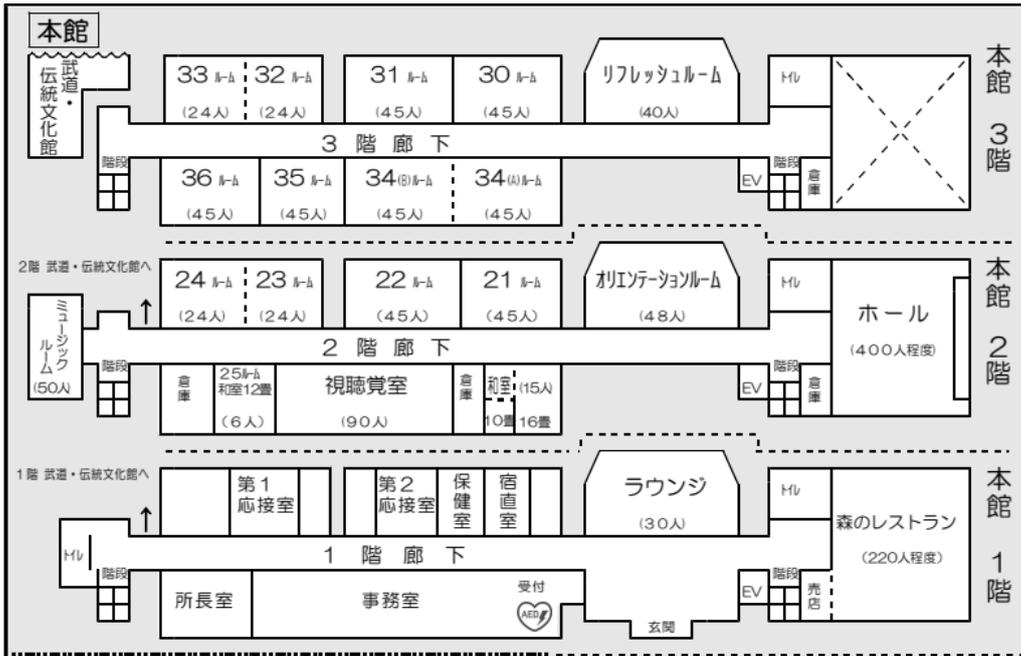
集会でたくさんの人と対話して、収穫して、高級器に負けないおでんへと変化していったほしい。私ももしかして10年ほど若返ることができる…かもしれない。



MEMO



会場見取り図



アンケートのお願い

右の二次元コードを読み込み、アンケートにご協力ください。



地域教育実践ネットワークえひめ実行委員会

代表 若松 進一

- | | | | | | | |
|--------|--------|--------|---------|-------|--------|-------|
| 赤石 雅俊 | 阿河 優里 | 浅野 長武 | 浅沼 裕子 | 浅山 莉奈 | 伊吹 剛 | 今井 博志 |
| 上田 和子 | 氏原 悠 | 宇津 博美 | 榎並 理子 | 遠藤 敏朗 | 大野 健司 | 大美 和博 |
| 小笠原 貴久 | 鍵山 直人 | 菅 華守民 | キム・チャンヒ | 木村 壮 | 國分 美由紀 | |
| 児島 亜紀子 | 堺 雅子 | 佐藤 淳子 | 柴崎 あい | 菅原 恵 | 隅田 直軌 | 関 福生 |
| 仙波 英徳 | 大藤 毅 | 高橋 和紀 | 武智 理恵 | 田鍋 修 | 田邊 裕貴 | 田房 克寿 |
| 土手 康之 | 豊島 秀一郎 | 中尾 茂樹 | 中尾 治司 | 長島 道子 | 中島 弘二 | 中村 議 |
| 西尾 祥之 | 西川 浩司 | 西山 博 | 林 智美 | 橋本 泰志 | 東 豊一 | 東野 博子 |
| 平岡 剛 | 舟田 美加 | 布村 龍有暉 | 堀江 俊佑 | 本田 精志 | 本多 正彦 | 松本 宏 |
| 眞鍋 幸一 | 水野 浩司 | 武藤 甲英 | 村上 伸二 | 森脇 和夫 | 山本 将義 | 吉田 和仁 |
| 吉田 幸稔 | 渡部 栄次郎 | | | | | |

問合せ先

〒791-1136
 松山市上野町 甲 650 番地 愛媛県生涯学習センター内
 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構 仙波
 FAX:089-960-1900 TEL:080-1995-6001
 mail:kouma@d6.dion.ne.jp

過去の活動等 情報は
<https://kochall.org/>